

村のようす

(52年2月1日現在)

世帯数 1,453戸 (+3)
 人口 7,327人 (+16)
 男 3,592人 (+7)
 女 3,735人 (+9)

広報 たまかわ

編集・発行

福島県石川郡
玉川村役場企画課

印刷所

須賀川市加治町8-6
㈲ 円谷印刷

決意も新たに成人式



▲ 謝辞を述べる佐藤さん

本村の百二十名の成人を祝う成人式が、今年も一月十五日の成人の日に就業改善センターで行なわれました。

式には、百三名の成人者と来賓多数が出席し、小針村長が「青年は新しい世紀をつくり出す原動力であり、玉川村の豊かな未来を築く担い手として、基本的な教養を身につけられ、主体性を確立して物事を冷静に考え、正しく判断し、成人としての誇りと責任をもって常に将来への志を托し、自己完成への道にまい進するよう願っています」と式辞を述べ、成人証書と記念のアルバムが贈られました。

また、大野県議会議員はじめ多数の来賓からは、成人者を励ます祝辞がありました。

これに対し、成人者を代表して、小高の佐藤知子さんが「輝かしい人生のスタートとしてこの感激を心の奥に深く刻み、一層自己研鑽につとめて、良き公民となるよう努力いたしますのでこれからも御指導をお願いします」と新たな決意と謝辞を述べました。

なお、式が終ったあとは、福島民報社編集局長河田亨氏の「世界の中の日本」と題する記念講演を聴き、また、記念撮影をするなど、晴れやかな中にも、決意を新たにする一日でした。

所得税・贈与税の申告と 納税は3月15日まで



申告納税期限は三月十五日までとなっていますが、期限間近になりますと税務署の窓口が大変混雑しますので、申告はできるだけ早く済ませましょう。

昭和五十一年分「贈与税」の申告と納税は、二月一日から、「所得税」の確定申告と納税は、二月十六日からそれぞれ受付が始まります。このおたづねください。

村政参加は選挙から

村の政治（地方自治）の「自治」ということは、読んで字のごとく、「みずからおさめる」ということです。

私たちがこの村で生活していくうえに、社会的、経済的にいろいろな利害関係が生じます。その問題をできるだけみずからの手で解決していくとすることが自治のたて

まえであると考えられています。このようなことから、玉川村に住んでいる村民は、村民の意志と責任により、玉川村のいろいろな問題を処理していくということが、村の政治（地方自治）ということになります。

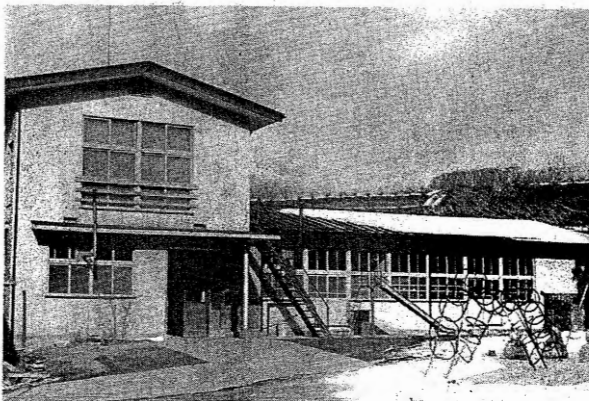
ことが地方自治の原理であるといっても、村民すべてがその仕事に参加することはとうてい無理なことであることから、その代表者を選んで間接的に参加するというになります。

そこで、村政は選挙により村民の代表者として選ばれた村長、村議会議員と村役場で仕事をしている職員（地方公務員）の手で実際に行なわれています。

このように、代表者を選挙で選び、その代表者により自分たちの意志を行政に反映していくということは、間接民主主義ともいわれています。このように私たち村民は、選挙を通じてはじめて村政に参加することになるので、選挙をするということが、村民としての権利を行使する基本となることの認識を新たにしてい、今後の選挙について考えていきたいと思います。

須釜地区にも幼稚園

須釜地区の幼児教育は、これまで須釜児童館で保育的の教育をしてきましたが、地域住民の強い要望もあって、本年四月からは須釜小学校に併設の幼稚園を開設して、充実した幼児教育を行なうことになりました。



須釜児童館は、北須釜地区の理解ある協力ののもとに、昭和四十年十月に着工し、昭和四十二年四月から児童厚生施設として、就学前児童の生活指導を実施してきましました。

▲十一年を経過した児童館

また、毎月積立てていた保険料は、国の財政投融資の資金として、主に各市町村が行う教育設備拡充事業、公営住宅整備事業等に還元融資されて、直接皆様のためにお役に立っています。

私たちの玉川村では、玉川第一小学校、須釜小学校に続いて、本年は川辺小学校の建設のために、簡保資金が大きく役立っています。

簡易保険がこれまでに発展してお役に立っているのも、村民皆様の簡易保険に対するご理解とご協力の賜ものと感謝申し上げます。

ただいま「明るい暮しの設計」簡易保険新加入運動を玉川村の協賛を得て実施中ですので、村発展に役立ち、明るいくらしを築くため郵便局の簡易保険にご協力ください。

川辺郵便局
須釜郵便局
▲簡保資金融資により完成
間近い川辺小学校

村の発展に役立つ 「簡易保険」



自動車の変更登録はいますぐに

自動車税は、四月一日現在の車検証の名義人に対し、五月に課税されますが、次のような場合にはいますぐ陸運事務所に登録変更手続きを行って下さい。

○車を下取りに出したり他人に譲渡したとき

○廃車したとき

○住所を変更したとき

登録関係は、自動車会社または、家用自動車協会が代行してくれます。

家用自動車協会

郡山市部

〇二二一五六七

須賀川市部

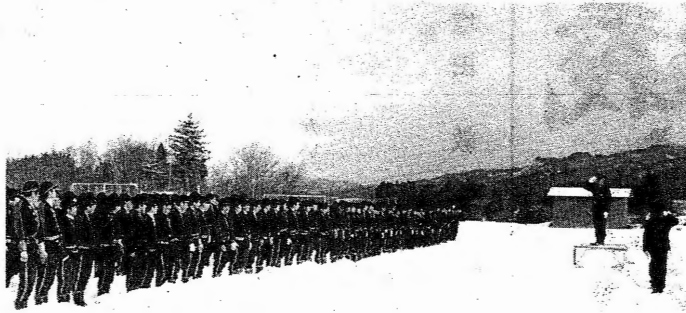
〇三二四八四

石川支部

〇二二六五三
(郡山県税事務所)

春季全国火災予防運動

火災は人災、防ぐはあなた！



二月の声とともに、火災が発生しやすい、また、季節風等により大火になりやすい時期になってまいりました。そこで今年も二月二十八日から三月十三日まで、全国いっせいに春季全国火災予防運動が実施されます。

この機会に火災予防についても一度考え、次のようなことに注意して、おそろしい火災を出さないようにいたしましょう。

- ① たばこの投げ捨てと寝たばこの防止
- ② 暖房器具やガスコンロの正しい使用
- ③ 就寝前や外出前の火の元点検の徹底
- ④ 消火用具や消火用水の備え付け
- ⑤ 火遊びの禁止とたき火の際の安全確認
- ⑥ 火災の際の消火活動や避難方法の周知徹底

▲ ひざまでの雪の中で行なわれた出初式



車田永男さんから優勝

村民囲碁将棋大会

公民館主催の村民囲碁将棋大会が、一月三十日玉川村就業改善センターで開かれ、熱戦をくりひろげた結果次の方々が入賞しました。

○囲碁A級

優勝 小針千代之助
準優勝 矢吹光正
▲熱戦をくりひろげる囲碁

○将棋B級

優勝 木戸峯夫
準優勝 佐藤貞雄
三位 鈴木利明

○将棋A級

三位 菅野邦夫
優勝 車田永男
準優勝 双里正輝
三位 双里政博

「補臈」真弓作左衛門斬殺顛末記

血染の小川 [完]

小高岩 谷 浩 光

無言の帰村

こうして、さしもの大事件も完全に落着きを見、蘇生村の一行は、興奮と感激を胸に秘めてなつかしの我が村へと急ぐのだった。

作左衛門の遺体は、一行が引取り、静かに我が家へ無言の門入りを行った。

千葉代官の温情

これより先、本事件は当時の領主、久松家の管令磐城国楢葉郡上郡山出張所へ届出があった。

当時の代官千葉輔助は、急をきいてわざわざ踏瀨の現場へと足を運び、屍体検視を行って、当時の状況、顛末、処置などにわたり詳細にわたっての調査を行っていたのである。

そして作左衛門は、「国事殉難」の扱いで上層部に報告し、何れ追ってそれ相応の手続きをとる旨をさとしきかせている。

そればかりでなく、遺家族の将来のことまで細部にわたって指示し、村役人は

よく相談にのり、厚く保護せよとの温情にみちた達しをつけ加えて、取扱いに万全を期している。

前記のほかに、芸州藩隊長若月良信より、関係者左記諸氏に、それぞれ手当が支給され、その労をねぎらわれたのであった。

一金三両 曲山文之助、真弓

喜右衛門、車田寛蔵の三人に慰労金として給与

一金二両 蘇生村役人曲山龍

平へ手当

一金二両 須賀川駅立役藤

井某へ手当

なお、作左衛門は、明治二十四年十月十二日石川郡令乙第一四七号により靖国神社へ合祀せられる。

稿を脱して

昨年六月以来、九カ月間にわたって連載させていただいた「血染の小川」は、本号をもって幕を閉じました。

この間、村民多数の方々から、この拙文を愛読している

ときかされたことは一再ではありませんでした。

その度ごとに、恥かしいような、またよかつたと思う気持が複雑にからみあつたものでした。

この拙文が村内に秘められた身近かな事実物語として、数多くの方々に知っていただいただけでも、被害者真弓作左衛門にとっては、さぞ満足して昇天されることと思えます。これこそ私にとつては望外のよろこびでもあります。村内には、この外に秘められた数々の事実が埋もれたままではいるのではないでしょう。

これを機として、我が村の歴史をたずね、祖先の労苦の跡をさぐることも、私共に課せられたつとめの一端だと思います。

今後とも資料提供などのご協力をお願い申し上げます。誠にありがとうございます。



こどもの場 四辻分校



つめたくて
手の先がちぎれそうな雪
こんな雪の中を
登校する私たち
こんな時は
みんな肩をつぼめ学校へ行く
足あと一つない校庭の雪が
太陽に照らされて光っている
「あつ、なんてきれいなんだ
ろう」

北風

三年
石森松吉

北風が
ひゅうとふいて
ぼくをこおらせるようだ。
でも

人間はこおらないので
あんしんだ。
そう考えていたら
雪のたまが
ちらちらふって
風にのせられて
どこにいくのかわからない。

冬

五年
塩田 敦

つめたい雪

冬の校庭

六年
塩田利代

早く来てほしい
山の中になむり
山の木は
はだかでも寒そうだ
山の雪や田んぼの水が
とけるのはまださきだ
雪がとけ
ふきのとうがかおを出す季節
が
早く来てほしい
くもは、
かわいじゅうやひこうきなど
いろいろな形をしている。
くもは、
食べられるわたがしのような
くもは、
ふわふわしている
ベッドのようだ。
風がふくと、
くもが
あつちの方へ行ってしまう。
くじらだったくもが

くも

四年

石井浩和

おとうさん

一ねん

いいたみか

わたしのおとうさんは
どうろこうじを していま
す。
夕がたに かえってきま
す。それから はわけしごと
をします。
わたしが よる おべんき
うよを して わからない
ことが あると おしえて
くれます。
やさしい おとうさんで
す。

おかあさん

一ねん

すだひろゆき

おかあさんは あさ 早く
おきて ごはんの よういを
します。そして ぼくをお
こして くれます。
八じに になると しごとへ
でかれます。
べんとうもちだから 夕が
たしか かえってきません。
ぼくが がっこうから か
えっても だれも いませ
ん。
おかあさん、うちに いれ
ば いいなあとおもいま
す。



お誕生おめでとう
ございます

(二月分の出生届書から)

地区	出生児氏名	世帯主名
川辺	須藤 幸	信 夫
小森	野崎 智	竹 与
小中	溝井 直	常 一
岩法	針 藤	文 正
亀崎	針 義	多 代
四辻新田	新草 針	甲 子
	鈴木 美	久 徳
	谷 奈	英 七
	木 恵	儀 次
		ノ

ご逝去お悔み申し上げます

(一月分の死亡届書から)

地区	死亡者氏名	年齢	世帯主名
川辺	野崎 力蔵	74	主 主
柳沼	山 次	55	主 主
小曲	林 キミヨ	93	ア 松
小渡	林 勝吉	61	倉 主
小渡	ナ ツギ	72	喜 主
渡辺	直 江	75	政 次
草野	直 一	58	主 一
草野	直 一	73	主 一
山小	石 森	84	清 春